

◆先週月曜の午後、飛行機で東京へ。翌火曜、この日が荷物の搬入予定日でしたが、業者の都合で2日伸び、この日は幼稚園の引継ぎで弓町本郷教会へ。水曜日は搬入の準備で新しく買った家具の組み立て。時間が空いたので、周辺のスーパーマーケット調査。そして遂に木曜日が来ました。前日からの強い北風が吹く中、午前9時過ぎから搬入開始。まずは冷蔵庫をはじめ大物家具の搬入。順調です。午後、段ボール箱に詰められた荷物が本格的に搬入されます。3時を過ぎた頃、床という床が見えなくなっても、後から後から荷物が入ってくる。「あと何個くらいでしょうか」と尋ねると「うーん、150個くらいですかねえ」。これでは入り切らない！！。しかしそこは引越のプロ。とにかく、部屋に積み上げるだけ積み上げ、最後は廊下の空きスペースへ。5時近くになって遂に終了。とは言え、ここからがわれわれの仕事。荷物は、家具と中身で、おおよそ体積が2倍になっている。特に書籍を書棚に納めなければ。ところが、段ボール箱は書棚の直前までいっぱい、身動き一つとれない。えいや、と段ボールの山に文字通り登って、まずは廊下の突き当りに設置した本棚に納める絵本を探す。1つ2つと探し出しては納める。こうして翌金曜午前も作業。本の3分の1程度は片付いた模様。それにしてもこんなにも箱が多い理由に気がつく。箱の一つ一つが重くならないように本は半分程度しか入っていない。これでは体積は2倍どころか3倍にもなってしまう。かくして荷物整理はこれからしばらく続きそうです。◆真砂坂を登った先にスカイツリーが霞んで見える。◆受難週の歩みが守られますように。



ムナのたとえはタラントンのたとえ（マタイ25）と似ているが幾つか違いもある。「ムナ」では主人が旅立つ理由と人々の様子が記されている。これからイエスはエルサレムに上り、十字架につけられる。弟子たちは再臨までイエス不在の時を過ごす。イエスを好まず、弟子たちを迫害する者たちがいる中、託されたものに忠実であるようにとイエスは語ったのだ。

もう一つの違いはお金の託し方である。マタイのタラントンは、託した額が人によって異なり、各自の賜物の違いと考えられてきた。しかし、ここでは皆1ムナずつである。平等に与えられるものについて語ったのだ。

ムナと何か。一つの説は「神の言葉」である。イエスは皆に神の言葉を託した。それをを用いて宣教に励みなさい、と。牧師は毎週説教をする。かつて牧会に出た頃の頃、説教の準備がなかなか進まなかった。それは、たとえて、主人が怖かったと言い、「ムナ」を布に包んでしまっていた僕の姿と似ていたと思う。間違ったことを語ったらどうしようと怖かったのだ。永遠の真理を語らねばならないかのようにではなく、肩の力を抜いて今与えられていることを語る。その方がずっと豊かに語ることができる。そして、イエス・キリストを信頼して自由に語ればよいと気付かされた。

ムナとは福音そのものと見る説もある。キリスト者は誰も平等に福音を託されている。その福音をしまいこまずに示す。それで十分なのだ。

たとえの最後に「わたしが王になるのを望まなかったあの敵どもを…打ち殺せ」とある。これが、再臨のイエスの言葉だとしたら恐ろしい。だが、わたしたちが臆せず励み、福音を伝えるなら、イエスを厭う人々はイエスを喜ぶ人々へと変えられる。怒りが発せられることもないであろう。